



ニュース

第 42 号

2012年9月25日発行
トップス広島 事務局
〒733-0036

広島市西区観音新町4-10-2
広島西飛行場ターミナルビル1F
TEL ; 082-233-3233 FAX ; 082-233-3251

URL ; www.tops-h.net/

ニュース

- *加盟団体***
- ・NTT西日本広島ソフトテニスクラブ
 - ・サンフレッチェ広島
 - ・JTサンダース
 - ・湧永製菓
 - ・広島メイプルレッズ
 - ・広島ガスバドミントン部
 - ・中国電力陸上競技部
 - ・コカ・コーラウエスト
 - ・広島東洋カープ

全日本社会人ホッケー選手権大会連覇達成



これまでの試合で勝ち進めてきたレッドスパークス。ついに決勝戦までたどりついた。決勝戦の相手はソニーHC BRAVIA Ladies。日本リーグでは今季初黒星をつけられた相手となり、気合が入り臨んだこの試合は、立ち上がりから両者の激しい試合となった。前半からお互い激しい試合となるがチャンスを生かし、しっかりとシュートを決め前半を2-1で終える。後半も運動量は衰えることなく軽快な動きを見せ、1点を追加。しかし隙をつかれPCを決められ3-2と迫られる。その後も緊張感漂う試合となるが、終盤ボールが相手選手のスティックに当たりゴール。それがダメ押し点となり4-2で勝利を飾り、悲願の大会2連覇となった。現在日本リーグでは2位である。この勢いで1位のソニーを撃ち下し日本リーグも2連覇を達成してもらいたい。

9月8日、9日に行われた日本リーグでは南都銀行に3-0、天理大学ベアーズに9-0で勝利し、勝ち点21で現在2位。首位とは勝ち点1差。残り9試合、負けることは許されない。10月13日15時から立命館大学ホリーズ戦、14日14時から南都銀行戦が広島で開催される。みんなで連覇へ向けて応援しよう！



日本一の選手と一緒にホッケーしませんか？

～キッズスクール開催のご案内～

南都銀行戦試合終了後、選手たちが直接ホッケーを指導して下さる数少ない機会。みんなと一緒にホッケーを体験してみよう。

日時：10月14日(日) 16:00～17:00

場所：CCW レッドスパークスホッケースタジアム

詳細は、トップス広島ホームページのコカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部のサイトからご確認ください。

サンフレッチェ広島 首位返り咲き

9月15日J1の第25節が行われた。現在2位につけている広島は、ホームで首位仙台との直接対決を迎えた。前半は互いに慎重な立ち上がりとなり、無得点に終わった。試合が動いたのは後半開始3分、MF青山敏弘からパスを受けたMF森崎和幸が右足を振り抜いた。森崎和幸はこの重要な試合で今季初ゴールを決めた。1点を追う仙台に後半25分、ヘディングシュートを決められ、試合が振り出しに戻るも、後半33分MF石川大徳からのクロスボールにFW高萩洋次郎が反応し、右足でボレーを決めた。この1点で2対1とした広島は、その後の仙台の攻撃をしのぎ切り試合終了。広島が首位の座に返り咲き、この日スタジアムに集まった2万5352人のサポーターと勝利の喜びを分かち合った。残り9節、このままの勢いで首位を守りきってほしい。



中国電力
陸上競技部

ロックンロールハーフマラソン 森本選手2位入賞

9月2日(日)アメリカ・バージニアにて、「2012ロックンロールハーフマラソン」が開催され中国電力陸上競技部から2名の選手が出場。2位に森本卓司選手が入り、6位に米澤類選手が入賞した。

2位の森本選手は1位の選手とのタイムの差が惜しくも6秒差だった。この悔しさを次回のレースで晴らしてもらいたい。

ちびっ子記者が大奮闘 JT サンダーズ



8月25日(土)に、猫田記念体育館において、「ちびっ子記者 トップス広島の選手を取材しよう！」が開催された。この日は、抽選で選ばれた8名のちびっ子記者がJTサンダーズ主将の國近公太選手、酒井大祐選手にインタビューを行った。JTサンダーズの練習を見学した後、「岐阜クラブ」との練習試合も観戦した。練習とはいえ国体を間近に控えての試合であることから熱戦が繰り広げられ、子ども達は巧みなコンビネーション、鮮やかなレシーブ、強烈なスパイクに興奮をしながら、大きな歓声を上げていた。試合結果は、セットカウント2-1とJTサンダーズが勝利を収めた。試合の熱気が冷めやらぬ中、子ども達のインタビューが始まった。日頃は遠くで見るだけの國近選手、酒井選手がインタビュールームに登場すると、ちびっ子記者達は、目の前で見る選手達の姿に緊張しているようで、最初はなかなか質問が出なかったが、選手達の明るい雰囲気にはぐされ次第に積極的に質問していた。「どうしてバレーボールを始めたのですか」、「どうしてJTサンダーズに入ったのですか」などそれぞれが思い思いの質問をし、約20分のインタビューはあっという間に終了した。取材を終えたちびっ子記者は、忘れることのできない夏休みの体験となったようだ。



日本ハンドボールリーグ LEOIC 地元広島で開幕

9月1日から日本ハンドボールリーグが開幕した。今年は地元広島で開幕することになり、両チームとも気合十分で試合に挑んだ。優勝を狙うワクナガレオリックは北陸電力を26-22で下し、見事2年連続で開幕戦勝利をあげた。8日の第2戦では、昨年までワクナガレオリックに在籍した東長濱選手の所属する琉球コラソンと対戦し、27-25で辛くも勝利し開幕2連勝を飾った。続く15日トヨタ車体戦では、落ちていてゲームを進めていたトヨタ車体に26-29で敗れ、今季初黒星となった。17日のトヨタ自動車東日本戦では、序盤からリードし続けていたワクナガレオリックが最後まで攻撃を緩めず、43-26で快勝した。この日は、ワクナガレオリックNo.17古家ガリリーグ通算500得点を達成した。

一方メイブルレッズは昨年のクイーンズのオムロンを地元を迎え、8年ぶりの頂点を目指したが、18-30と大差をつけられ開幕戦勝利とはいかなかった。試合は序盤両チームともロースコアで互角の戦いを繰り広げていたが、前半中盤からオムロンがリードを広げ折り返しでは7点差となった。後半、メイブルレッズのマンマークにオフェンスのリズムが崩れたオムロンを攻め立てるが、タイムアウト後再加速し後半中盤で試合の行方を決定付けた。試合後、呉成玉監督は「全員が自分の役割を果たさないとオムロンには勝てない」と嘆いた。15日に行われたソニーセミコンダクタ戦では30-26とメイブルレッズが逃げ切り、17日に行われた三重バイオレットアイリス戦では、No.18加藤の日本リーグ初得点などもあり、38-17と快勝。そして22日HC名古屋戦でも29-14と3勝目をあげ、メイブルが順当勝ち。両チームとも4試合が終わり3勝1敗と現在3位に付けている。

未来のハンドボールドスター発掘

9月8日の試合前、子供たちを対象とした「トップアスリート『技』伝授」が行われた。ワクナガレオリックからは中浦成崇・成田幸平・新名亮介の3選手メイブルレッズからは安齋千尋・塩田真奈美・加藤唯選手が参加し、子供たちに基本技術の指導を行った。選手らは試合前であったが、リラックスした表情で将来のハンドボール選手達に指導していた。子供たちにとっても、忘れられない夏休みの体験となった。



広島ガス、全日本社会人大会ベスト16

平成24年9月7日(金)~12日(水)北海道旭川市で行われた第55回全日本社会人大会にて、広島ガスバドミントン部の井上春奈選手がシングルスでベスト16となった。ダブルスでは、昨年度優勝した小池・今別府ペア(ヨネックス)が連覇を試みたが、惜しくも敗れベスト16となった。ペアとしての練習がなかなかできない中であったが、2人らしいコンビネーションを試合の中で見ることができた。前田・桜井ペアもベスト16入り。この調子で、次の9月21日から始まる山口県岩国市で行われる中国地区総合バドミントン選手大会でさらなる活躍を期待したい。

大庭・佐々木ペア3位! 全日本社会人ソフトテニス選手権大会

9月1日(土)、2日(日)に第40回全日本社会人ソフトテニス選手権大会が行われた。男子は新潟市庭球場で開催され、村上・中本ペアがベスト16入りを果たした。堀・長江ペア、水澤・岩崎ペアはベスト32、館越・原ペアは4回戦敗退という結果だった。女子は1日(土)に燕市スポーツパーク市民テニスコート、2日(日)に新潟市庭球場で開催された。中野・小林ペア、三好・伊東ペアはベスト16、水間・榎本ペアはベスト32という結果であった。その中で、一際活躍を見せたのは大庭・佐々木ペアだった。女子準決勝でナガセケンコーと対戦しファイナルゲームまで粘ったが、3-4で惜しくも敗退し、3位という結果を残した。

また、9月8日(土)、9日(日)に広島市中央テニスコートにて、第19回JOC杯日本ジュニアソフトテニス選手権大会が行われた。18才~20才の部、女子シングルスで小林美咲選手が出場し、惜しくも準々決勝で敗退したが、ベスト8入りした。そして、9月末より2011年にアベック優勝した国民体育大会が岐阜県でいよいよ始まる。この大会で2年連続アベック優勝を期待したい。

カーブの石井琢朗内野手(42)が今季限りで引退すると8月27日に発表された。石井は88年ドラフト外で当時の大洋ホエールズに投手として入団し、92年に野手に転向した。横浜時代は、主力として数々のタイトルを獲得し活躍した。2009年広島へ移籍。広島では本職の遊撃手のほかに、二塁手・三塁手でも起用されたが、日本歴代最多となる遊撃手としての試合出場記録を更新している。今季からはコーチ兼任選手としてプレーしていたが、オープン戦で自打球による負傷した右足の故障の影響で不振が続き7月に一軍登録を抹消され引退を決意した。「たくさんのファンの方々を支えられてきた。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。カーブとしては4年間だけでしたが、横浜の20年間を凌駕する位の内容の濃い4年間であり、いろいろ勉強させてもらうことも多かったです」とコメントした。引退セレモニーは9月30日の阪神戦。今季限りで引退する石井琢朗は「広島で優勝」が目標であったが、24年の現役生活の花道を飾るために最後の最後まで赤ヘルカーブよ、意地をみせてくれ。

「赤く染まった4年間
石井選手現役引退」



*** ロゴマークの意味 *** 広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。